



写真1：左は海藻の展示、右は海草（アマモ）の展示。



写真3：シダモク



写真2：アマモ

みんなは、海藻（かいそう）と海草（うみくさ）の違いをご存じでしょうか？

mini・mini 水族館の「海藻の森と磯浜」水槽には「アカモク」などの海藻を、「アマモ場と砂浜」水槽には海草の「アマモ」を展示しています（写真1）。今回は、海藻と海草の違いを簡単にご紹介します。

まず海藻は、祖先が海で誕生した単細胞の小さな藻類で、その中から多細胞の大きな体を持ち、岩にはりついて生活するように進化してきた植物です。一方、海草は、緑色の色素をもつ藻類のあるグループが水中から出て、私たちがよく知っている陸上で花をさかせタネを作る種子植物に進化した後、再び海中生活に戻ったものです。したがって、海草であるアマモは、陸上の種子植物と同じで根・茎・葉の区別があり、花を咲かせタネを作ります（写真2）。しかし、大昔から海で生まれ育ってきた海藻のからだには根や茎はなく、からだ全体が光合成を行う葉にあたります。写真3の海藻（シダモク）をみると根のように見える部分がありますが、これは水や養分を吸収する根ではなく、からだを岩に固定するもので、仮根（かこん）と呼ばれます。また、花やタネを作らず、孢子などによる別のしくみで子孫を残します。

海藻と海草、同じ海の植物でもそのたどってきた進化の歴史の違いで、ずいぶん違う生き方をしているのですね。